

(別紙様式)

平成 29 年度「いわて中山間賞」候補調書

集落等の名称		なりおかだのうち・みずほぜんかんりかつどうそしき				
集落等の名称		成岡田農地・水保全管理活動組織				
集落等の状況	市町村	奥州市				
	代表者 氏名・住所	氏名	千葉 康夫		住所 奥州市前沢区	
	地域の農用 地面積	計	田	畑	草地	採草放牧地
		3, 281a	3, 281a	0a	0a	0a
	構成員	世帯数	構成人数	うち 農業者	うち 非農業者	うち 女性
44 戸		44 人 2 組織	43 人 1 組織	1 人	12 人	4 人
農用地の作 付け状況	計	水稻	牧草	WCS 用稲	その他	
	1, 630a	810a	690a	a	a	130a
集落等の概況	<p>成岡田農地・水保全管理活動組織は、奥州市南東部に位置する前沢区にあり、北上川と束稲山の間に位置する生母地域の山間部側の集落である。水稻を中心とした農家が多いが、農地は束稲山麓の傾斜地に広がっており、大半の水田は耕作条件が不利な小区画の棚田である。その他、繁殖牛農家 8 戸が構成員に加わっており、稲わら、堆肥の交換など耕畜連携による農業が定着している。今年度は、当集落から全国和牛能力共進会への出品牛が選出されるなど、前沢牛ブランドの一翼も担っている。</p> <p>生母地域の中では、最も高齢化と人口減少が進んでいる地域であるが、近年、世代交代を積極的に進めながら集落農業の維持に取り組むとともに、地域に伝わる祭事や成岡田神楽の伝承に努めている。</p>					
集落等の組織体制図						
将来の 目指す姿	<p>将来にわたり農業生産活動等が可能となるような実施体制を構築するために、引き続き集落内での世代間交流を継続していく。また、成岡田営農組合における農地集積を進めることと併せて、集落外の担い手とも連携できる仕組を構築していく。</p>					

### 1 地域の活動のきっかけ

人口が少なく、高齢化も進んでいる地域であったが、耕作を続けてきたことにより維持されてきた美しい棚田などの景観や、地域に伝わる伝統を守り、地域や農用地を維持する目的で、中山間地域等直接支払制度を活用し、成岡田農地・水保全管理活動組織を設立。

中山間直払制度を活用することにより、地域一体となって農地を維持していく機運は高まったが、協定参加者は高齢者がほとんどで、65歳以上の協定参加者からは「息子はいるけど仕事を持っているから声かけできない」「自分たちができる間は自分たちがやるしかない」という声が出されるなど、高齢層の地域住民だけで共同取組を進めるなどして集落を維持する状況であり、10年後20年後の集落維持については展望が見いだせない状況であった。また、若い世代からは「草刈りなど地域のごとは親がやるものだ」「親が元気なうちは任せたい」という声が出されるなど、集落維持について他人事として捉えている若者も多く、草刈りや水路維持についてもやり方なども若者に継承されていない状況であった。

特に東稲山麓に位置し、条件不利な小区画の棚田が多く、高齢層の地域住民だけの現状の体制では集落を維持することが困難であったことから、中山間地域等直接支払制度第3期が始まる際には、息子・娘を協定に参加してもらうよう声かけを行うことを集落で意識統一して参加を働きかけた結果、協定参加者の世代交代が図られた。

なお、多面的機能の増進を図る活動の一つとして、地域で継承されてきた伝統芸能である成岡田神楽の保存・継承をしていくために、「成岡田御神楽保存会」と連携しているほか、集落協定締結を契機に「お花の会」を設置した。

### 2 地域の活性化に向けた取組活動の特徴と成果

#### ① 高齢世代任せにしない共同取組

中山間地域等直接支払制度第3期が始まる際、息子・娘が協定参加者になるよう働きかけをした結果、構成員44人のうち2割が54歳以下となり、また、役員も年齢構成についても、64歳以下の協定参加者が中心となっており、若い人が中心となって集落維持活動が実施されるようになった。また、女性も役員を担い、集落内での連携に尽力している。

日ごろから、各世帯の家族や農地の状況などについて情報を集落内で共有しながら、集落の現状を全員で共有、理解した上で、集落全体で地域のことについて考える流れをつくっている。協定参加者の世代交代を進めたことにより、草刈りや水路掃除等共同取組に参加する若者も増えた。

#### ■当地域の構成員の状況

協定参加者 (計44人 (うち女性12人))					協定役員 (計9人 (うち女性3人))				
~44歳	~54歳	~64歳	~74歳	75歳~	~44歳	~54歳	~64歳	~74歳	75歳~
4人	5人	9人	14人	12人	2人	1人	4人	1人	1人
20%		80%			78%			22%	

※管内集落平均は1割

※管内集落平均は5割

また、共同取組については、各戸複数人での参加を呼びかけ、協定参加者になっていない若者にも農用地を維持するための管理技術を継承するとともに、地域の若者が主体となった地域農業や集落の維持の必要性について気運醸成を図っている。

## ② 世代間交流及び都市農村交流

多面的機能の増進を図る活動として、地元で伝わる成岡田神楽の保存・継承を積極的に行い、農村文化の伝承活動を通じた農村コミュニティの維持強化が図られている。成岡田神楽は、世襲制で継承されてきたが、集落として守っていくべき地域文化であることから、当集落としても多面的機能の増進を図る活動の一つとして位置づけている。神社の例大祭（毎年9月8日）の前夜から神社に足を運ぶ地域の風習も続いているなど、地域文化の継承の取組は、特に若者が地域に対する誇りをもつことと併せ、青年による芸術同好会の活動など集落の若者同士の連帯感が醸成されている。

なお、隣接している集落とも神楽や地域の祭事等で交流しており、今後、農地維持活動などにおいて連携を図る必要が出てきた際は、隣接集落との協力も円滑に進められる関係が構築されている。

さらに、都市部から農山村体験型教育旅行の受け入れ（昨年度受入人数 69 人）を行い、農業・農村の良さを外部にも発信している。

その他、組織的に景観保全を進めていく流れをつくっていくために設置した「お花の会」では、長年に渡り、子ども達も参加して花壇づくりを継続しており、地域の美しい景観形成や、世代間の交流や活性化にも繋がっている。

## ③ 耕畜連携や認定農業者の育成

当地域には、高い技術を有する肉牛繁殖農家が8戸おり、前沢牛ブランドの一翼を担うとともに、成岡田営農組合が牧草等供給調整役を担っているほか、稲わらや堆肥の交換による土づくりなど耕畜連携による持続的な農業が定着している。繁殖牛を飼育している協定農業者のうち5人は認定農業者にもなり（平成27年度1人新規、2人更新認定、平成28年度2人更新認定）、地域の中心となる経営体としても位置づけられ、地域農業を守る流れも作られている。

## 3 今後の課題と将来展望

現在は、徐々に協定農業者の世代交代が進んでいることから、維持が難しくなっている協定農用地はないが、農業従事者が減少していることから、成岡田営農組合での農地集積を進めることと併せて、集落外の担い手とも連携できる仕組みを構築していく。

そのために、農道への砂利敷を50m実施して農業生産条件を強化することと併せ、農作業の委託を協定農用地20%以上にすることを立てて担い手への農作業の委託を進める。

## 集落の活動写真

